

第4回 新宿区多文化共生まちづくり会議 議事概要

日 時 平成26年8月29日（金）15:00～17:00

場 所 新宿区役所本庁舎5階 大会議室

出席委員 毛受委員、李委員、森田委員、稲葉委員、藤田ラウンド委員、金朋央委員、曹委員、丁委員、イーイーミン委員、シュレスタ委員、センブ委員、バーバー委員、江副委員、鈴木委員、小林委員、朽木委員、盛委員、リコ委員、梶村委員、本多委員、太田委員、勝村委員 22名

欠席委員 山脇委員、川村委員、小島委員、二瓶委員、魚見委員、金世煥委員、金根熙委員、朝倉委員、乾委員 9名

1 開会

2 答申（案）について

－各部会審議報告

－全体討議

外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上部会から

- ・「特別の教育課程」の導入について、教育委員会に積極的に取り組んでいただきたい。
- ・区内在住の外国人の多くは留学生で流動性が高いものの、外国にルーツを持つ子どもたちは定住化傾向にあるため、災害時に役立つ人材に育成することができる。

災害時における外国人支援の仕組みづくり部会から

- ・防災訓練等はイベントになってしまいがちだが、外国人も支援する側に回るための、人づくりに視点をおいたものにしていきたい。
- ・帰宅困難者対策について等、議論しきれなかったものもあるため、今後議論する場を設けていきたい旨答申した。
- ・あらかじめ各国の大使館・コミュニティ団体の災害時の支援体制について把握されたい。
- ・区内外国人使用言語として多い言語（英語、中国語、韓国語）がわからない外国人向けにも災害ワークショップはできないか。

両部会に共通する、答申「施策の実現に向けて」部分について

- ・しんじゅく多文化共生プラザ（以下、プラザ）の機能強化には、職員の専門性と、在住外

国人との信頼関係が欠かせない。この構築のため区職員の人事異動について見直してほしい。

- ・新宿未来創造財団の創設により、国際交流協会としての活動と、区やプラザとの連携がうすれてしまった。ルーツの子どもについても災害時についても一体化して問題解決にあたれるようにしてほしい。

- ・どの分野でも各担当が対応にあたっているものの、部署間の連携がとれていない。

- ・行政に何ができるか考え、理想論にならないように答申をまとめた。できるところからまず一歩やっ払いこうという内容にした。

3 区長への答申

4 区長あいさつ

5 閉会